

平成 29 年度
岩国市教育委員会点検・評価報告書

岩国市教育委員会

■目次

はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1
第1章 教育委員会会議及び教育委員の活動 ・・・・・・・・	1
1 教育委員会会議の開催状況	
2 教育委員会会議での審議状況	
3 教育委員の活動状況	
第2章 点検・評価の実施 ・・・・・・・・・・・・・・・・	7
1 対象事業	
2 対象期間	
3 意見聴取	
第3章 点検・評価の構成 ・・・・・・・・・・・・・・・・	7
1 点検・評価シートの構成	
2 教育関係団体代表等の意見聴取	
3 教育委員会会議での議決	
4 市議会への提出及び市民への公表	
点検・評価実施のフロー図・・・・・・・・	8
第4章 事業の点検・評価 ・・・・・・・・・・・・・・・・	9
事業評価一覧表・・・・・・・・	9
点検・評価シート	
教育政策関係・・・・・・・・	10
学校教育関係・・・・・・・・	12
青少年関係・・・・・・・・	14
教育センター・・・・・・・・	15
生涯学習関係・・・・・・・・	16
文化財保護関係・・・・・・・・	18
岩国徴古館、岩国学校教育資料館及び歴史民俗資料館	19
図書館・・・・・・・・	21
科学センター・・・・・・・・	23
公民館関係・・・・・・・・	25
おわりに・・・・・・・・・・・・・・・・	26

■はじめに

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和 31 年法律第 162 号）第 26 条第 1 項の規定により、教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、市議会に提出するとともに市民に公表することとされております。

本報告書は、法の趣旨にのっとり、各事業の取組や成果を分析するとともに、項目ごとの評価を踏まえて総合評価を行い、今後の方向性について検討を行ったものです。

本市教育委員会では、本年 3 月に、平成 30 年度から平成 34 年度までの 5 か年計画である新たな教育基本計画を策定したところです。

市の将来を担う子供たちの健やかな成長を願い、変革の時代、国際化の時代を生き抜く力を備えた子供を育てていくとともに、市民が心豊かで生きがいのある人生を送ることができるよう、義務教育における夢と愛と力を育む教育実践の推進や社会教育の充実を図るための様々な事業を実施しています。

今後におきましても、時代に適した教育施策を実施してまいりますので、市民の皆様方におかれましては、本報告書を御高覧の上、多くの御意見をお寄せいただきますよう、また、今後の教育行政の充実・発展に対し、御理解・御協力を賜りますようお願い申し上げます。

■第 1 章 教育委員会会議及び教育委員の活動

1 教育委員会会議の開催状況

教育委員会会議は、原則、毎月 1 回の定例会を開催するとともに、必要に応じて臨時会を開催することとしており、平成 29 年度は、次のとおり開催しました。

- (1) 教育委員会会議定例会・・・・・・ 12 回
- (2) 教育委員会会議臨時会・・・・・・ 4 回

2 教育委員会会議での審議状況

教育委員会会議では、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第 21 条に定める教育委員会の職務権限のうち、教育長に委任された事務を除いたものに係る議案等の審議を行っており、平成 29 年度においては、次の案件について審議を行いました。

- (1) 議案 平成 29 年 4 月から同年 12 月まで

番号	議決日	件名
10	4 月 20 日	岩国市教育委員会事務局等の組織に関する規則の一部を改正する規則について
11	4 月 20 日	岩国市教育委員会職員職名規程の一部を改正する訓令について
12	4 月 20 日	岩国市教育委員会事務決裁規程の一部を改正する訓令について
13	4 月 20 日	岩国市社会教育委員の委嘱について
14	4 月 20 日	平成 29 年度山口県教科用図書岩国採択地区協議会規約について

15	5月17日	岩国市立学校職員の勤務時間、休暇等に関する規則の一部を改正する規則について
16	5月17日	岩国市立学校職員服務規程の一部を改正する訓令について
17	5月17日	岩国市学校給食センター条例の一部を改正する条例について
18	6月22日	岩国市教育委員会特定個人情報の取扱いに関する管理規程について
19	7月11日	平成30年度岩国市立小学校において使用する学校教育法第34条に規定する教科用図書の採択について
20	7月19日	岩国市教育委員会事務局等の組織に関する規則の一部を改正する規則について
21	7月19日	岩国市教育委員会公印規則の一部を改正する規則について
22	7月19日	岩国市学校給食センター条例施行規則の一部を改正する規則について
23	7月19日	岩国市学校給食センター運営委員会規程の一部を改正する訓令について
24	7月19日	平成28年度教育委員会の点検及び評価について
25	7月27日	岩国市職員人事について
26	8月22日	平成28年度決算認定について
27	8月22日	平成29年度教育費9月補正予算の見積りについて
28	8月22日	岩国市学校給食運営基金条例について
29	8月22日	平成29年度前期岩国市児童生徒善行表彰について
30	8月25日	岩国市職員人事について
31	8月31日	平成30年度岩国市立小学校及び中学校において使用する学校教育法附則第9条に規定する教科用図書の採択について
32	10月24日	平成29年度岩国市社会教育功労賞の表彰について
33	11月20日	平成29年度教育費12月補正予算の見積りについて
34	11月20日	岩国市学校給食費条例について

(2) 議案 平成30年1月から同年3月まで

番号	議決日	件名
1	2月14日	平成29年度教育費3月補正予算の見積りについて
2	2月14日	平成30年度教育費予算の見積りについて
3	2月14日	重複地番解消のための山地番の変更に伴う関係条例の整理に関する条例について
4	2月14日	平成29年度後期岩国市児童生徒善行表彰について
5	2月14日	岩国市いじめ防止基本方針の改定について
6	3月15日	平成30年度岩国市立小学校及び中学校教職員人事について
7	3月19日	岩国市教育支援教室の設置に関する規則の一部を改正する規則について
8	3月19日	岩国市学校運営協議会規則の一部を改正する規則について

9	3月19日	岩国市学校給食センター条例施行規則の一部を改正する規則について
10	3月19日	岩国市学校給食センター運営委員会規程の一部を改正する訓令について
11	3月19日	岩国市学校給食管理運営規程の一部を改正する訓令について
12	3月19日	岩国市教育基本計画の策定について
13	3月19日	岩国市職員人事について

(3) 報告 平成29年4月から同年12月まで

番号	報告日	件名
5	4月20日	行事予定及び行事報告について
6	5月17日	行事予定及び行事報告について
7	6月22日	行事予定及び行事報告について
8	7月19日	行事予定及び行事報告について
9	8月22日	行事予定及び行事報告について
10	8月22日	公用車の事故に関する専決処分の報告について
11	9月27日	行事予定及び行事報告について
12	10月24日	行事予定及び行事報告について
13	11月20日	行事予定及び行事報告について
14	12月19日	行事予定及び行事報告について

(4) 報告 平成30年1月から同年3月まで

番号	報告日	件名
1	1月22日	行事予定及び行事報告について
2	1月22日	公務上の事故に関する専決処分の報告について
3	2月14日	行事予定及び行事報告について
4	2月14日	公務上の事故に関する専決処分の報告について
5	3月19日	行事予定及び行事報告について

(5) 協議 平成29年4月から同年12月まで

番号	協議日	件名
1	12月19日	岩国市教育基本計画の策定について

(6) 協議 平成30年1月から同年3月まで

番号	協議日	件名
1	2月14日	岩国市教育基本計画の策定について

3 教育委員の活動状況

教育委員は、定例及び臨時の教育委員会会議への出席のほか、市長が招集する総合教育会議への出席、小・中学校の訪問や研修への参加などの活動を行っており、平成29年度の活動は次のとおりです。

(1) 総合教育会議への出席

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第1条の4の規定に基づき、市長と教育

委員会が十分な意思疎通を図り、同じ方向性の下に連携して効果的に教育行政を推進していくため、総合教育会議が設置されています。会議では、平成 29 年度の教育関係施策の主な取組について協議しました。

- ・平成 29 年 7 月 18 日（火） 市役所 6 階議会会議室
第 1 回岩国市総合教育会議 委員 5 人出席

(2) 学校訪問

- ・平成 29 年 5 月 21 日（日） 装港小学校
運動会 委員 1 人出席
- ・平成 29 年 5 月 27 日（土） 各小学校
運動会 委員 5 人出席
- ・平成 29 年 5 月 28 日（日） 各小学校
運動会 委員 1 人出席
- ・平成 29 年 6 月 3 日（土） 川上小学校
運動会 委員 1 人出席
- ・平成 29 年 6 月 4 日（日） 周北小学校
運動会 委員 1 人出席
- ・平成 29 年 9 月 9 日（土） 各中学校
体育祭 委員 5 人出席
- ・平成 29 年 9 月 10 日（日） 錦中学校
体育祭 委員 1 人出席
- ・平成 29 年 9 月 16 日（土） 各小学校
運動会 委員 2 人出席
- ・平成 29 年 9 月 17 日（日） 各小学校
運動会 委員 4 人出席
- ・平成 29 年 9 月 24 日（日） 錦清流小学校
運動会 委員 3 人出席
- ・平成 29 年 10 月 31 日（火） 岩国中学校
確かな学力推進研究事業研究発表会 委員 4 人出席
- ・平成 29 年 11 月 2 日（木） 御庄小学校
道徳授業セミナー 委員 1 人出席
- ・平成 29 年 11 月 6 日（月） 灘中学校
小中連携授業力向上実践研修会 委員 2 人出席
- ・平成 29 年 11 月 9 日（木） 通津小学校
確かな学力推進研究事業研究発表会 委員 1 人出席
- ・平成 29 年 11 月 10 日（金） 平田中学校
キャリア教育 委員 1 人出席
- ・平成 29 年 11 月 14 日（火） 通津中学校
小中高連携英語教育推進校研究会 委員 1 人出席
- ・平成 29 年 12 月 5 日（火） 岩国小学校
確かな学力推進研究事業研究発表会 委員 2 人出席

- ・平成 30 年 1 月 24 日（水） 愛宕小学校
「外国語教育強化地域拠点事業」「外部専門機関と連携した英語指導力向上事業」 委員 1 人出席
 - ・平成 30 年 3 月 9 日（金） 各中学校
卒業証書授与式 委員 5 人出席
 - ・平成 30 年 3 月 20 日（火） 各小学校
卒業証書授与式 委員 5 人出席
- (3) その他の活動
- ・平成 29 年 4 月 14 日（金） 福祉会館
岩国市立小・中学校長・園長会議 委員 5 人出席
 - ・平成 29 年 4 月 18 日（火） 山口市
県市町教育委員会委員研修会議 委員 4 人出席
 - ・平成 29 年 4 月 28 日（金） 由宇中学校
岩国市・和木町中学校教育研究会総会 委員 4 人出席
 - ・平成 29 年 5 月 2 日（火） 麻里布小学校
岩国市・和木町小学校教育研究会総会 委員 3 人出席
 - ・平成 29 年 7 月 4 日（火） 福祉会館
岩国市立小・中学校長・園長会議 委員 5 人出席
 - ・平成 29 年 7 月 7 日（金） シンフォニア岩国
岩国市青少年育成市民会議総会 委員 1 人出席
 - ・平成 29 年 7 月 20 日（木）～21 日（金） 広島県東広島市
中国地区市町村教育委員会連合会研修大会 委員 5 人出席
 - ・平成 29 年 10 月 13 日（金） 周南市
山口県市教育委員会協議会研修会 委員 1 人出席
 - ・平成 29 年 11 月 5 日（日） シンフォニア岩国
岩国市文化功労賞等表彰式典 委員 4 人出席
 - ・平成 29 年 11 月 16 日（木）、11 月 17 日（金） 沖縄県浦添市、那覇市
市町村教育委員会研究協議会（第 2 ブロック） 委員 4 人出席
 - ・平成 29 年 11 月 18 日（土） 周防大島町
大島商船高等専門学校創基 120 周年・高専創立 50 周年記念式典
委員 1 人出席
 - ・平成 29 年 11 月 22 日（水） 福祉会館
岩国市 P T A 連合会教育懇話会 委員 4 人出席
 - ・平成 29 年 11 月 24 日（金） 福祉会館
岩国市立小・中学校長・園長会議 委員 5 人出席
 - ・平成 29 年 12 月 1 日（金） 周東パストラルホール
やまぐち地域連携教育の集い（岩国地域） 委員 2 人出席
 - ・平成 30 年 1 月 7 日（日） シンフォニア岩国
岩国市成人式 委員 5 人出席
 - ・平成 30 年 1 月 23 日（火） 和木小学校

- 大竹市・岩国市・和木町教育委員協議会及び教育懇話会 委員 4 人出席
- ・平成 30 年 1 月 30 日（火） 岩国市役所
岩国市社会教育功労賞表彰式 委員 5 人出席
 - ・平成 30 年 2 月 1 日（木） 灘中学校
「立志の日」記念式典 委員 1 人出席
 - ・平成 30 年 2 月 17 日（土） シンフォニア岩国
平成 29 年度「立志の日」作文発表大会 委員 1 人出席
 - ・平成 30 年 3 月 1 日（木） 市内高等学校
卒業証書授与式 委員 5 人出席

■第2章 点検・評価の実施

1 対象事業

点検・評価の対象範囲は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第21条の規定により「教育委員会の職務権限」となる事務を始め、市長の事務委任及び補助執行として行っている事務を含む本市教育委員会が執行する全ての事務とします。

これらの事務のうち、対象とする事業については、「教育基本計画」に基づく「施策概要」に掲げる事業の中から主たる事業を選定したものです。

2 対象年度

平成29年度

3 意見聴取

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条第2項に規定する「学識経験を有する者の知見の活用」については、本市の教育関係団体の代表等に御意見を賜り、今後の教育行政の施策等に資することとしました。

■第3章 点検・評価の構成

1 点検・評価シートの構成

(1) 対象事業

「教育基本計画」の「施策概要」の中から選定した事業

(2) 事業の目的・現状・実績

各施策の目標達成に向け、具体的に取り組んだ事業ごとの「目的」、「現状（内容）」及び「実績」を示すもの

(3) 事業費

人件費相当額を除いた事業の直接経費を「決算額」で示すもの

(4) 点検・評価

事業の「達成度（4点）」、「有効性・必要性（3点）」及び「効率性（3点）」を評価するとともに、その成果、課題等を示す。また、この3項目の評価をもって、「総合評価」を行うもの

総合評価	内容	各項目の合計点数（10点満点）
S	非常に良い	9～10
A	良い	7～8
B	おおむね良い	5～6
C	悪い	3～4
D	非常に悪い	1～2

(5) 今後の方向性

点検・評価結果に基づき、事業を客観的に検証し、課題・改善点を次の事業展開にいかすもの

2 教育関係団体代表等の意見聴取

点検・評価について、教育関係団体代表等の意見を聴取し、反映した。

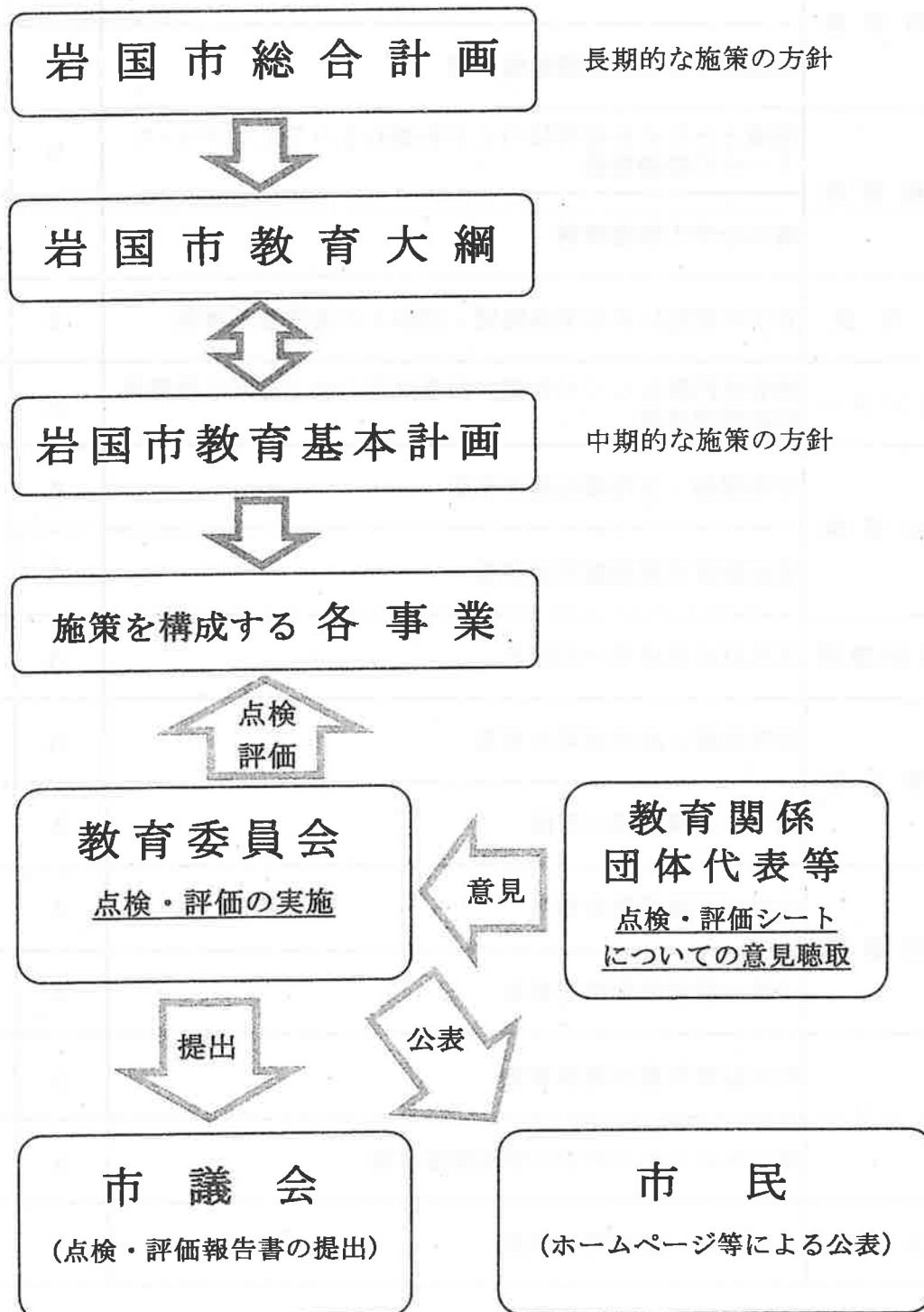
3 教育委員会会議での議決

- (1) 対象事業や評価・点検項目のヒアリング
- (2) 事務局で実施した内部評価に基づき、各施策・事業を最終評価

4 市議会への提出及び市民への公表

教育委員会会議での議決を経て、点検・評価報告書を市議会に提出するとともに、ホームページ等において公表

点検・評価実施のフロー図



■第4章 事業の点検・評価

事業評価一覧表

担 当 課	事 業 名	総 合 評 価	ページ
教 育 政 策 課	小中学校・幼稚園施設耐震化推進事業	A	10
	岩国市学校空調設備整備事業	A	11
学 校 教 育 課	地域とともにある学校づくりを進めるコミュニティ・スクールの整備推進	S	12
	確かな学力推進事業	A	13
青 少 年 課	青少年問題に係る関係機関・団体との連携強化事業	S	14
教育センター	教育専門職としての知識・指導技術の向上を図る教職員研修推進事業	A	15
生 涯 学 習 課	学習情報・学習機会提供事業	A	16
	家庭教育支援基盤形成事業	A	17
文化財保護課	文化財の次世代への継承	A	18
岩 国 徴 古 館	研究活動と展示会等の充実	A	19
	研究会、講座等の開催	A	20
中 央 図 書 館	自動車図書館更新事業	A	21
	子供の読書活動推進事業	A	22
科 学 セ ン タ ー	科学振興展覧会開催事業	A	23
	青少年のための科学の祭典開催事業	A	24
中 央 公 民 館	各種学級・講座開催事業	A	25

施策名	学校施設の整備促進		
事業名 (担当課)	小中学校・幼稚園施設耐震化推進事業（教育政策課）		
目的	小中学校・幼稚園施設の耐震化の実施により、児童・生徒の安心・安全を確保するとともに、地域の避難所としての役割を果たす。		
現状	平成20年度から実施している当事業において、全施設の耐震診断を平成23年度までに終えた。毎年定める年次計画にのっとり、耐震性の低い施設から優先的に耐震化工事を進め、平成29年度末での耐震化率は97パーセントとなった。 また、平成32年度までに非構造部材の落下対策を整備するよう工事を逐次進めている。		
実績	平成29年度においては、年次計画のとおり、1校1棟の耐震補強工事を行った。また、耐震補強工事に併せて全4校で、天井落下対策などの非構造部材の大規模な補修工事を行った。		
事業費	平成29年度決算額 276,362 千円		
点検・評価	項目	点数	評価の視点と理由
	達成度	3	実績により、事業本来の目的の達成度から、どの程度の成果が得られたか。
			年次計画のとおり、工事を執行し耐震化工事の早期完了を進めてきた。平成30、31年度に計画されている東小中学校の改築により、耐震化率が100パーセントに達する見込みである。
	有効性 必要性	3	教育委員会が実施する必要性。市民ニーズや社会情勢に合っているか。
			耐震化工事を行うことで、児童・生徒、教職員等の安全が確保され、災害発生時における地域住民の避難場所としての機能強化にもつながることから、有効性、必要性は非常に高いものである。
	効率性	2	事業コスト（予算、人員）等の配分が適切か。効果を上げるための改善の余地はないか。
			近年の全国的な地震の発生等による危機感から、耐震化の実施が強く求められている。この事業は多大な財政負担を伴うが、有利な財源及び技術職員の人材確保により、事業の早期完了が見込まれる。
総合評価			
A			
今後の方向性	天井等の非構造部材の耐震対策の必要性が強く求められている中、校舎本体の耐震化を推進するとともに非構造部材の耐震化対策に取り組んだ。今後においては、学校配置計画等との整合性を図りながら、改築を含め、学校施設全体の計画的な整備を進めていく。		

施策名	学校施設の整備促進		
事業名 (担当課)	岩国市学校空調設備整備事業（教育政策課）		
目的	空調設備を整備することによって岩国市立小中学校の児童・生徒の学習環境の整備及び健康管理の改善を推進する。		
現状	平成25年度から実施している当事業において、平成29年度の工事をもって普通教室の空調設備の整備率は100パーセントとなった。今後は、特別教室への空調設備の整備を進めることを検討し、調査及び調整を行っている。		
実績	年次計画のとおり、平成29年度においては、5校の空調設備設置工事を行った。また、各校で空調設備工事に併せて室外機への防護措置を行い、空調設備の設置による学習環境の整備及び健康管理の改善を確保した。		
事業費	平成29年度決算額	85,072	千円
点検・評価	項目	点数	評価の視点と理由
	達成度	3	実績により、事業本来の目的の達成度から、どの程度の成果が得られたか。
			年次計画により工事を執行し、学校における児童・生徒の学習環境の確保及び健康管理への配慮をするため空調設備工事の早期完了を進めてきたが、平成29年度に普通教室の空調設備の整備率が100パーセントに達した。
	有効性 必要性	3	教育委員会が実施する必要性。市民ニーズや社会情勢に合っているか。
			普通教室への空調設備の整備については、多方面から要望やニーズがある。それに伴い、整備実施に向けて年次計画を立て計画的に取り組んでいる。このように、学校空調設備を整備し、維持管理することによって、快適な学習環境の確保ができ、児童・生徒の健康管理に配慮した環境の確保を図ることができる。
効率性	2	事業コスト（予算、人員）等の配分が適切か。効果を上げるための改善の余地はないか。	
		空調設備の運用に当たっては、「岩国市立小中学校空調設備運用指針」を定め、環境負荷低減への取組を推進している。具体的には、稼動期間及び使用時の室温設定などを明記し、空調設備の運用を適切に行っている。	
総合評価			
A			
今後の方向性	近年の夏季においては、全国的に真夏日・猛暑日が続いているため、今後も厳しい気象条件が続くと予想される。それに伴い、学校の学習環境が悪化し、児童・生徒の集中力の低下や体調不良を起こすことが懸念される。今後においては、特別教室への整備に向けて、有効な財源の確保及び年次計画の作成等を行い、市内の学校施設全体の計画的な整備を進めていく。		

施策名	学校経営の基盤となる学校力の向上		
事業名 (担当課)	地域とともにある学校づくりを進めるコミュニティ・スクールの整備 推進（学校教育課）		
目的	児童・生徒のコミュニケーション能力の育成、学校教育の活性化及び地域教育力の向上を目指したコミュニティ・スクール（学校運営協議会）を各学校で活用することによって、家庭・学校・地域との連携・協働体制による教育活動を推進する。		
現状	これまで文部科学省のコミュニティ・スクール推進事業に取り組み、美和中学校、由宇中学校にて、学校運営協議会の設置に向け準備を進めてきた。両校の取組と情報発信を通して、平成21年度に美和中学校、平成23年度に岩国中学校、高森小学校をコミュニティ・スクールに指定し、学校運営協議会の設置が始まった。続いて、平成24年度から平成26年度までの3年間で、市内中学校を順次コミュニティ・スクールに指定し、平成27年度においては、これまでの中学校の取組を基に全小学校をコミュニティ・スクールに指定し、更なる家庭・学校・地域の連携及び協働による教育活動の充実を目指してきた。 現在も生涯学習課と連携しながら、各中学校区を一つのまとまりとして、幼児期から中学校卒業程度までの子供の育ちや学びを地域ぐるみで見守り、支援する仕組み（地域協育ネット）を充実させ、小中連携の体制づくりを推進している。		
実績	平成29年度は、5中学校区（麻里布中・平田中・由宇中・玖珂中・周東中）をモデル中学校区に指定し、学校運営協議会に参加したり、熟議等を実施したりした。そして、その取組を他校の学校運営協議会に紹介し「CSだより」により周知を図った。また、岩国市CS・協育ネット推進協議会において、全県の施策への共通認識を形成するほか、地域ごとの課題を把握し共有するために熟議を行った。また、平成29年度から市長部局の職員も参加し、より広い視野で児童・生徒の支援について意見を交換できるようにした。終了後は地域ごとにその意見を共有することにより、取組の活性化につながった。		
事業費	平成29年度決算額	231	千円
点検・評価	項目	点数	評価の視点と理由
	達成度	3	実績により、事業本来の目的の達成度から、どの程度の成果が得られたか。
			市内全小中学校をコミュニティ・スクールに指定した。各中学校においては、校区内の小学校区とのつながりを意識した学校運営協議会を設置している。それにコミュニティ・スクールコンダクターが加わり、中学校区全体での連携・協働体制が進んだ。小中学校と地域が連携して児童・生徒を見守り、育てる体制が出来ている。
	有効性・必要性	3	教育委員会が実施する必要性。市民ニーズや社会情勢に合っているか。
			地域の声を学校運営に反映させるという社会のニーズに合った学校づくりに、保護者や地域の関心は高く、学校の取組の改善にも有効である。そのほか、学校内にあるコミュニティルームを地域に開放し、学校を核とした地域づくりにも必要である。
効率性	3	事業コスト（予算、人員）等の配分が適切か。効果を上げるための改善の余地はないか。	
		家庭・学校・地域の連携を支援する「コミュニティ・スクールコーディネーター」の委嘱により、学校の教育活動への保護者や地域住民の参画が進んだ。コーディネーターの活動例を幅広く提示することで、学校や地域の特性をいかした取組の一層の強化が図られ、個々の地域のニーズに合った取組が効率的に行われている。	
	総合評価		
	S		
今後の方向性	岩国市においても、県の施策である「やまぐち型地域連携教育」に沿って、中学校とその校区内にある小学校での合同運営協議会を開催し、小中連携を基盤としたコミュニティ・スクール同士の連携・協働を進めていく。また、それぞれの中学校区での取組が充実したものとなるよう支援していく。さらには、その取組を共有する岩国市CS・地域協育ネット推進協議会を設置し、市内全中学校区において、コミュニティ・スクールの機能が十分に発揮されるように推進していく。今後は、地域内にある幼稚園や保育園、高等学校との連携や市長部局とも連携し、より効果的な取組を目指す。		

施策名	学力の向上・健やかな体の育成		
事業名 (担当課)	確かな学力推進事業（学校教育課）		
目的	基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力、そして主体的に学習に取り組む態度を育むために、学力向上推進校を設け、その成果を広く公開し、全小中学校の学力の水準を高める。また、全ての子供に学びを保障する「かかわりのある授業」を推進し、具体的な指導法を提示し、教師の授業力の向上に努める。 ※「かかわりのある授業」とは、児童・生徒が課題を自ら考えたり、友達と話し合ったりするなど、課題に主体的に関わり解決することによって、確かな学力を身につけるための授業のこと。		
現状	市内の全小中学校において、年2回の検証改善サイクルを確立させることで、児童・生徒の実態に合わせた学力向上プランや学校課題を作成し、学力向上に向けて授業改善に取り組んでいる。具体的には、基本的な授業の流れを示した「岩国市授業スタンダード」や「岩国プラン」に則った授業の実施に向けて取り組んでいる。また、確かな学力推進事業研究指定校の成果を広く公開し、授業改善を推進するなど、授業の質の向上に努めている。		
実績	学力定着に向けて、各学校の実態に応じた学習プリントの印刷を進めていった。 確かな学力推進事業研究指定校では、先進校を視察するなどし、全校体制で研修を進めた。岩国小学校、通津小学校では研究大会を開催している。特に、岩国中学校においては、平成30年度発表に向けて研修を重ねている。 また、学力向上推進委員会では、中学校教諭による「かかわりのある授業」の実現のために指導案を作成し、授業を公開するなど、授業改善に取り組んでいる。		
事業費	平成29年度決算額	3,053	千円
点検・評価	項目	点数	評価の視点と理由
	達成度	2	実績により、事業本来の目的の達成度から、どの程度の成果が得られたか。 児童・生徒の学力定着を図るため、全ての学校で「やまぐち学習支援プログラム」を活用した学習プリントを教室に常備し、これを繰り返し使用して学習している。 教職員が「分かる喜び・できる喜び」を味わえる授業を展開できるよう「岩国プラン」と「岩国市授業スタンダード」を示した。また、学力向上推進リーダー及び推進教員と連携し、各校の実態を把握しながら、授業力の向上に向け一層の校内研修の活性化を図った。さらに、年2回の検証改善サイクルを確立するために組織体制の整備も図られている。
		有効性 必要性	3
	効率性		3
		総合評価	
	A		
今後の方向性	「岩国プラン」に基づいた授業展開事例集としての小学校編・中学校編に続き、学力向上に向けた「授業アイディア例（算数・数学編、国語編、外国語活動・英語編）」を作成したところであり、これを市内小中学校において活用を更に進めていく必要がある。併せて学力向上担当者会議等を活用することで、校内研修の充実及び授業の改善を図る。また、指導主事の担当校訪問や各種の要請訪問等を利用して、「岩国プラン」「岩国市授業スタンダード」実施の徹底を目指すとともに、更なる授業の改善を進め、各校の校内研修が充実・深化するよう支援を行う。 今後は、確かな学力推進校における研修の成果を広く市内小中学校に広げ、「主体的、対話的で深い学び」の視点からの授業の改善がされるよう更なるアプローチを行っていく。		

施策名	青少年健全育成活動の推進																		
事業名 (担当課)	青少年問題に係る関係機関・団体との連携強化事業（青少年課）																		
目的	学校、家庭、地域、関係機関及び諸団体との連携を強化し、子供の健全育成を図る。																		
現状	昨今の青少年を取り巻く環境は、いじめや不登校、インターネット等を介した問題行動、少年犯罪の深刻化等、多様化している。こうした中、青少年の健やかな成長を図るには、学校・家庭・地域との一層の結び付きを深め、県・他市町・警察や青少年健全育成団体などの関係機関との情報交換や共有を進めるとともに、協働して対応していくことがより重要となっている。																		
実績	生徒指導主任研修会や補導連絡協議会等、青少年問題に関わる会合を年間41回開催又は参加して、学校、家庭、地域、関係機関及び諸団体との情報の交換・共有を行い、関係の緊密化を図った。																		
事業費	平成29年度決算額 - 千円																		
点検・評価	<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th><th>点数</th><th>評価の視点と理由</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>達成度</td><td>3</td><td>実績により、事業本来の目的の達成度から、どの程度の成果が得られたか。 平成27年度から活動スローガンを「愛の声かけ2,000人」と定め、街頭で出会う全ての子供たちに温かい声掛けをしていくことで問題行動の未然防止を図っている。平成29年度は、1,921件の声掛けを実施するなど関係機関及び諸団体との連携に努めた。</td></tr> <tr> <td>有効性 必要性</td><td>3</td><td>教育委員会が実施する必要性。市民ニーズや社会情勢に合っているか。 近年、少子高齢化や情報化社会の急速な進展等により、青少年を取り巻く環境は大きく変化している。こうした変化に迅速かつ的確に対応するためにも、各種団体との連携をより緊密にしていく必要がある。</td></tr> <tr> <td>効率性</td><td>3</td><td>事業コスト（予算、人員）等の配分が適切か。効果をあげるための改善の余地はないか。 事業コストの点においても適切である。</td></tr> <tr> <td colspan="3">総合評価</td></tr> <tr> <td colspan="3">S</td></tr> </tbody> </table>	項目	点数	評価の視点と理由	達成度	3	実績により、事業本来の目的の達成度から、どの程度の成果が得られたか。 平成27年度から活動スローガンを「愛の声かけ2,000人」と定め、街頭で出会う全ての子供たちに温かい声掛けをしていくことで問題行動の未然防止を図っている。平成29年度は、1,921件の声掛けを実施するなど関係機関及び諸団体との連携に努めた。	有効性 必要性	3	教育委員会が実施する必要性。市民ニーズや社会情勢に合っているか。 近年、少子高齢化や情報化社会の急速な進展等により、青少年を取り巻く環境は大きく変化している。こうした変化に迅速かつ的確に対応するためにも、各種団体との連携をより緊密にしていく必要がある。	効率性	3	事業コスト（予算、人員）等の配分が適切か。効果をあげるための改善の余地はないか。 事業コストの点においても適切である。	総合評価			S		
項目	点数	評価の視点と理由																	
達成度	3	実績により、事業本来の目的の達成度から、どの程度の成果が得られたか。 平成27年度から活動スローガンを「愛の声かけ2,000人」と定め、街頭で出会う全ての子供たちに温かい声掛けをしていくことで問題行動の未然防止を図っている。平成29年度は、1,921件の声掛けを実施するなど関係機関及び諸団体との連携に努めた。																	
有効性 必要性	3	教育委員会が実施する必要性。市民ニーズや社会情勢に合っているか。 近年、少子高齢化や情報化社会の急速な進展等により、青少年を取り巻く環境は大きく変化している。こうした変化に迅速かつ的確に対応するためにも、各種団体との連携をより緊密にしていく必要がある。																	
効率性	3	事業コスト（予算、人員）等の配分が適切か。効果をあげるための改善の余地はないか。 事業コストの点においても適切である。																	
総合評価																			
S																			
今後の方向性	次世代を担う青少年の健全な育成を図るためには、家庭、学校はもちろん、地域や関係機関が連携を密にし、青少年一人一人の理解を深め、共同実践することが重要である。今後も情報交換を充実して、効率的な健全育成活動の推進を図っていく。 地域ぐるみの健全育成運動の推進、家庭の日（毎月第3日曜日）の普及・推進、広報啓発活動の推進、環境美化運動の推進の4項目を重点的に取り組んでいく。																		

施策名	社会の変化に対応した研修の企画・運営																				
事業名 (担当課)	教育専門職としての知識・指導技術の向上を図る教職員研修推進事業（教育センター）																				
目的	地域や学校、子供たちの実態や新学習指導要領の趣旨を踏まえ、岩国ならではの特色ある教育活動を展開するため、教職員のキャリアステージに応じた研修の企画・運営により、識見や指導技術の向上を図るとともに、授業評価をいかした授業改善を推進する。																				
現状	夏季休業中を中心に年間を通じて教職の専門職としての個々のスキルアップを図るため、研修会を開催した。市内全小中学校から、多数の教職員が研修会に参加し、知識・指導技術の向上を図った。 また、指導主事が学校訪問し、授業評価の実施方法や活用方法及び岩国市授業スタンダードの趣旨を個別に指導している。																				
実績	授業力向上やICT教育、生徒指導、特別支援教育等、夏季休業中を中心に年間44回の研修講座を開催した。延べ約1,000人の教職員が参加し、専門職としての知識・技術の向上に努めた。																				
事業費	平成29年度決算額 297 千円																				
点検・評価	<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th><th>点数</th><th>評価の視点と理由</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">達成度</td><td>3</td><td>指標の実績率、その向上見込み及び事業本来の目的の達成度から、どの程度の成果が得られたか。</td></tr> <tr> <td></td><td>教職員のニーズや現代の教育課題に沿った実践的な研修講座を企画・運営したことで、教職員の関心が高まり、多くの教職員を研修に参加させることができた。</td></tr> <tr> <td rowspan="2">有効性 必要性</td><td>3</td><td>教育委員会が実施する必要性。市民ニーズや社会情勢に合っているか。</td></tr> <tr> <td></td><td>教育力、指導技術、学級経営力の向上はもちろん、いじめや不登校・クレーム対応等、現在の学校が抱える問題は多様化している。小学校又は中学校の教育研究会等で自主的に研修を行ってはいるが、教育委員会主催による教職員の専門的な研修実施は必要不可欠である。</td></tr> <tr> <td rowspan="2">効率性</td><td>2</td><td>事業コスト（予算、人員）などの配分が適切か。効果をあげるための改善の余地はないか。</td></tr> <tr> <td></td><td>市内小中学校の管理職や専門性の高い教職員に講師を依頼することで、コスト削減を図るとともに、実効力の高い研修会を実施することができた。</td></tr> </tbody> </table> <table border="1"> <tr> <td>総合評価</td></tr> <tr> <td>A</td></tr> </table>	項目	点数	評価の視点と理由	達成度	3	指標の実績率、その向上見込み及び事業本来の目的の達成度から、どの程度の成果が得られたか。		教職員のニーズや現代の教育課題に沿った実践的な研修講座を企画・運営したことで、教職員の関心が高まり、多くの教職員を研修に参加させることができた。	有効性 必要性	3	教育委員会が実施する必要性。市民ニーズや社会情勢に合っているか。		教育力、指導技術、学級経営力の向上はもちろん、いじめや不登校・クレーム対応等、現在の学校が抱える問題は多様化している。小学校又は中学校の教育研究会等で自主的に研修を行ってはいるが、教育委員会主催による教職員の専門的な研修実施は必要不可欠である。	効率性	2	事業コスト（予算、人員）などの配分が適切か。効果をあげるための改善の余地はないか。		市内小中学校の管理職や専門性の高い教職員に講師を依頼することで、コスト削減を図るとともに、実効力の高い研修会を実施することができた。	総合評価	A
項目	点数	評価の視点と理由																			
達成度	3	指標の実績率、その向上見込み及び事業本来の目的の達成度から、どの程度の成果が得られたか。																			
		教職員のニーズや現代の教育課題に沿った実践的な研修講座を企画・運営したことで、教職員の関心が高まり、多くの教職員を研修に参加させることができた。																			
有効性 必要性	3	教育委員会が実施する必要性。市民ニーズや社会情勢に合っているか。																			
		教育力、指導技術、学級経営力の向上はもちろん、いじめや不登校・クレーム対応等、現在の学校が抱える問題は多様化している。小学校又は中学校の教育研究会等で自主的に研修を行ってはいるが、教育委員会主催による教職員の専門的な研修実施は必要不可欠である。																			
効率性	2	事業コスト（予算、人員）などの配分が適切か。効果をあげるための改善の余地はないか。																			
		市内小中学校の管理職や専門性の高い教職員に講師を依頼することで、コスト削減を図るとともに、実効力の高い研修会を実施することができた。																			
総合評価																					
A																					
今後の方向性	若手教職員の大量採用に伴い、授業力、学級経営力の向上、ICT活用による業務改善等、岩国市の現状と課題を見据えた研修を計画することとしている。 また、全中学校区での小中一貫教育の推進に向け、多くの教職員にその趣旨や重要性が浸透するよう研修を行いたい。 今後、不登校やいじめ問題に対応する研修等、岩国市の喫緊の課題に応じた研修講座を企画していきたい。																				

施策名	豊かな心を育む生涯学習の推進		
事業名 (担当課)	学習情報・学習機会提供事業（生涯学習課）		
目的	新しい時代をひらく生涯学習推進のために、学習情報の提供や出前講座の開講によって、市民の自立した活動を支援する。		
現状	(1) 学習情報の提供については、出前講座（イカルス）、生涯学習関係施設、学習グループなどを紹介する全市民向けの情報誌を発行し、各施設に備え置くとともに、各種講座開催時や集会時に配布を行っている。 (2) 出前講座（イカルス）については、5人以上のグループからの受講要請があれば、受講希望者と講師との仲介を行い、お試し講座を開講している。2回目以降は自主的に開講してもらう。		
実績	(1) 生涯学習情報誌について、手に取りやすく、活用しやすいA5判に平成28年度から変更した。平成29年度は、生涯学習情報ガイドを4,000冊発行した。 (2) 出前講座（イカルス）については全部で28回開講され、合計700人の受講者があった。内訳は、行政職員が講師の講座は7回開催され、130人が受講した。ボランティア講師の講座は21回開催され、570人（うち、子供対象講座は12回で427人）受講した。また、ボランティア講師のスキルアップのために93の団体・個人を対象に6月に研修会を開催し、26人の参加があった。		
事業費	平成29年度決算額 <u>780</u> 千円		
点検・評価	項目	点数	評価の視点と理由
	達成度	3	実績により、事業本来の目的の達成度から、どの程度の成果が得られたか。
			出前講座（イカルス）について、各種団体の利用は多少減少しているが、これは情報ガイドを参考に講師の紹介を依頼されるケースが多かったためであり、生涯学習情報誌としての利用はむしろ増加している。（平成28年度は7件、平成29年度は14件）利用者からのアンケートでは講座に満足している意見やリピーターも多いことから、講座実施の役割は十分果たしていると言える。
	有効性 必要性	2	教育委員会が実施する必要性。市民ニーズや社会情勢に合っているか。
			社会教育法第5条第16号「社会教育に関する情報の収集、整理及び提供に関すること。」の義務付けにより、実施している。情報誌や出前講座に関する問合せ等は多くあり、生涯学習に対する市民の興味・関心度は高い。
	効率性	2	事業コスト（予算、人員）等の配分が適切か。効果を上げるための改善の余地はないか
			平成28年度からリニューアルした情報学習情報ガイド（毎年発行）は、見やすさを念頭にイカルスの講座内容をわかりやすく記載した。また、情報誌とともにイカルスのチラシを公民館等に備え置き、利用増加に努めていく。
総合評価			
A			
今後の方向性	生涯学習に対する市民の関心は高く、特に高齢者と子育て世代の間で顕著であり、個々の人が必要とする学習情報を提供し、満足度が高く自立した活動ができるよう引き続き支援する必要がある。情報誌については、平成28年度からのリニューアルに加え、市民が必要とする情報を少しでも把握できるよう、平成29年度は、情報ガイドの巻末にアンケート誌面を取り入れた。今後は、市民のニーズに応え、興味を持てる情報誌になるよう工夫していきたい。イカルスについては、講師の新規登録者の確保や利用者の増加に向けて、引き続き、ホームページやチラシの配布などで周知・PRを行っていく予定である。		

施策名	豊かな心を育む生涯学習の推進		
事業名 (担当課)	家庭教育支援基盤形成事業（生涯学習課）		
目的	子育てに関する情報や学習機会を提供し、さらには、家庭教育を支える人材を養成することにより、地域全体で家庭教育を支援する。		
現状	(1)親子対象の行事や学習機会を掲載した家庭教育支援のためのリーフレット「いわくにっこ」を年4回発行している。 (2)家庭の教育力の向上を目的として、小学校就学前の子の保護者を対象とした「子育て学習会」の開催や、中学校在校生の保護者を対象とした「家庭教育学習講座」を開催している。 (3)平田中学校区に訪問型家庭教育支援チームを立ち上げ、家庭訪問や学習支援を行う「とどける家庭教育支援事業」を実施している。その一環として、親同士のつながりの場「ほっこり」を開設している。家庭環境の実態に応じてスクールソーシャルワーカーや本市の各行政関係機関、その他専門機関と連携して家庭や子供の安定を図っている。		
実績	(1)家庭教育支援のための親子向けリーフレット「いわくにっこ」を、7月・10月・12月・3月に各7,100部の計2万8,400部発行した。 (2)小学校就学前の子の保護者を対象とした「子育て学習会」を市内32小学校で実施した。また、中学校在校生の保護者を対象とした「家庭教育学習講座」を市内14中学校で実施した。 (3)現在は5人の支援員により、小学1年生の担任と家庭訪問を行い、校内では教室で学習支援を行っている。これまで関わったほとんどの家庭や子供に改善の傾向が見られ、家庭の孤立化解消や学校課題の改善に寄与している。		
事業費	平成29年度決算額	2,514	千円
点検・評価	項目	点数	評価の視点と理由
	達成度	3	実績により、事業本来の目的の達成度から、どの程度の成果が得られたか。 中学校在校生の保護者を対象とした「家庭教育学習講座」を実施しており、平成29年度は市内14中学校において4,066人の生徒・保護者が参加した。また小学校就学前の保護者を対象にした「子育て学習会」には市内32校で1,215人の児童・保護者が参加した。
		有効性 必要性	3
	効率性	2	事業コスト（予算、人員）等の配分が適切か。効果を上げるための改善の余地はないか。 平成24年度から、家庭教育支援チームが親子向けリーフレット「いわくにっこ」に掲載する情報の編集を行っている。今後も、子育てに必要な情報の内容を充実させ、家庭において子供と一緒に読むことができる誌面づくりに努めている。
	総合評価		
A			
今後の方向性	「子育て学習会」「家庭教育学習講座」等の学習機会の提供や情報誌による家庭教育の意識啓発・情報提供を更に充実させていく必要がある。 また、地域ぐるみで子供たちを支援するための仕組みである「地域協育ネット」において、教育支援活動と連携した家庭教育支援の体制を強化するため、学校や関係機関との連携を図っていく。 それに加え、現在、家庭の孤立化や悩みを抱える家庭に対し、地域の支援員が積極的に関わり、学校や関係機関とつなげる支援を継続的に届けることで、家庭教育力の向上とコミュニティの場づくりを充実させているところであり、今後は、他の中学校区にもチームを立ち上げていく予定である。		

施策名	文化財の保護保存と活用の推進		
事業名 (担当課)	文化財の次世代への継承（文化財保護課）		
目的	長い歴史の中で生まれ育まれてきた岩国市の貴重な財産である文化財を守り、次世代に継承するために、子供たちへの普及啓発や後継者育成に対し、様々な支援に取り組む。		
現状	現在、岩国市内には181件の指定文化財（平成30年4月2件指定）と11件の登録文化財が存在している。市内全域にわたって様々な文化財が存在する中、特に山村地域を中心に過疎化や高齢化が進んでおり、無形民俗文化財においては後継者問題が生じ、その他の文化財についても保護・保存を担う人材の不足が危惧されている。		
実績	(1)国指定天然記念物「岩国のシロヘビ」については、シロヘビ親子教室を開催し、約100人の参加者を受け入れた。また、4月から10月までシロヘビこども飼育員事業を行い、12人の児童がシロヘビの世話を体験した。 (2)「岩国シロヘビの館」においては、市内の児童・生徒に繰り返し来館し学んでもらうために特別企画展を3回実施した。 (3)国指定特別天然記念物「オオサンショウウオ」については、科学の祭典、環境フェスタ等で生体展示を行い、延べ1,000人を超える参加者に啓発を行った。 (4)オオサンショウウオの夜間観察会を開催し、約20人の参加者を受け入れた。 (5)新規企画として、実際に現場を探検し、魅力を体感する文化財探検隊を実施した。 (6)「岩国民俗芸能まつり」を実施し、多くの観客に岩国市の貴重な文化財を再認識してもらった。		
事業費	平成29年度決算額 51,402 千円		
点検・評価	項目	点数	評価の視点と理由
	達成度	3	実績により、事業本来の目的の達成度から、どの程度の成果が得られたか。 「岩国シロヘビの館」は、開館初年度に引き続き18万人程度の来館者でにぎわっている。シロヘビにおいて子供を対象とした2事業は、毎年大変好評である。オオサンショウウオにおいては、科学の祭典、環境フェスタ等で生体展示に取り組むとともに、夜間観察会を開催した。 また、「岩国民俗芸能まつり」についても、好評を得ており、問合せ等も多い。会場は市内全域を持ち回りで開催しており、市内・市外から来場者がある。
	有効性 必要性	2	教育委員会が実施する必要性。市民ニーズや社会情勢に合っているか。 文化財の保護、継承、普及啓発等は、教育委員会が行うべき業務である。シロヘビに関する事業と「岩国民俗芸能まつり」は共に人気を博しており、ニーズがあるものと考えられる。
	効率性	3	事業コスト（予算、人員）等の配分が適切か。効果を上げるための改善の余地はないか。 「岩国シロヘビの館」は、建築・維持ともに多額の費用が掛かっているが、館の運営費とシロヘビ保護・保存のための経費の多くを入館料によって賄っている。 シロヘビこども飼育員やシロヘビ親子教室は、一般財団法人 岩国白蛇保存会と協働して実施し、市の事業費負担は軽減されている。 「岩国民俗芸能まつり」に関しては、経費を節減することで、継続的に実施し、民俗芸能の発表・鑑賞の場を設けている。 それ以外の文化財についても、予算を節減し活用を拡大している。
	総合評価		
A			
今後の方向性	文化財保護・保存と活用は今後とも必要であり、引き続き行っていきたい。 また、現在の事業についてだが、ますますの充実を図り、より多くの市民に文化財の価値を普及・啓発できる方法についても考えていきたい。		

施策名	博物館、資料館共通の取組		
事業名 (担当課)	研究活動と展示会等の充実（岩国徴古館）		
目的	岩国徴古館、岩国学校教育資料館、歴史民俗資料館ともそれぞれの特徴をいかした企画を考え、収蔵資料の充実を図る。また、資料のみにとどまらず、地域の歴史や文化も併せた調査研究に努め、地域に根ざした博物館、資料館として、成果を市民に還元できる館づくりを目指す。		
現状	(1) 展示の基本となる常設展示の充実に努めている。 (2) 岩国徴古館においては、年に6～7回の企画展を開催するとともに、企画展の開催に併せ、参考図書の刊行や体験講座、ギャラリートーク等の関連行事を行っている。由宇歴史民俗資料館においては、年1～2回の特別展を開催している。 (3) 郷土に関する史料等を調査研究し、史料集を刊行している。		
実績	(1) 平成30年に明治150年を迎えるに当たり、岩国徴古館では、常設展示を幕末維新記念コーナーに改修し、岩国を中心とした明治維新に関する映像の上映や、タッチパネルで自由に検索できる幕末維新データベース、パネルによる解説等を行っている。また、新発見資料の公開等、展示資料についても随時入替えを行っている。 (2) 岩国徴古館については、企画展を6回開催し、約2万8,000人の来館者があった。また、企画展に併せて体験講座を実施し、参加者から好評を得た。加えて、企画展への関心を高めるために吉川経幹の生涯について紹介する漫画形式の小冊子を刊行した。 (3) 市民等の郷土史研究に寄与するため、吉川家文書（明治追加）（吉川史料館蔵）のデジタル化を行った。		
事業費	平成29年度決算額 6,539 千円		
点検・評価	項目	点数	評価の視点と理由
	達成度	3	実績により、事業本来の目的の達成度から、どの程度の成果が得られたか。 岩国徴古館においては、教育や産業、幕末の動乱をはじめとした、江戸時代の岩国に関する展示だけでなく、旧海軍の展示等、幅広い企画展を行うことにより、安定した来館者があった。また、企画展と併せて実施した体験講座も参加者から好評を得た。調査・研究についても貴重史料のデジタル化を行ったことにより、一定の成果があったといえる。
	有効性 必要性	3	教育委員会が実施する必要性。市民ニーズや社会情勢に合っているか。 岩国市の歴史や文化を調査研究するとともに、展示を通して広く伝えていくことは、教育機関である博物館・資料館の重要な役割である。
	効率性	2	事業コスト（予算、人員）等の配分が適切か。効果を上げるための改善の余地はないか。 専任学芸員の確保により資料の調査・研究が進み、幅広い企画展をおこなうことができるようになった。
	総合評価 A		
今後の方向性	(1) 展示を常に見直すことにより、魅力的な常設展となるよう努めていく。 (2) 企画展の内容充実を図り、来館者の増加につながるよう努めていく。 (3) 調査研究を継続し、市民などの郷土史研究に寄与するよう努めていく。		

施策名	岩国徴古館の取組															
事業名 (担当課)	研究会、講座等の開催（岩国徴古館）															
目的	岩国徴古館において郷土史研究会、古文書講座等を開催することにより、郷土の歴史に対する市民の関心を高めるとともに、市民に学習の場を提供する。															
現状	(1)主催事業として、月1回の郷土史研究会と古文書講座を開催している。 (2)学校や公民館等に外部講師として学芸員を派遣している。															
実績	(1)郷土史研究会を12回開催し、延べ386人の参加があった。また、古文書講座を12回開催し、延べ235人の参加があった。 (2)外部講師として市内の学校に12回、公民館に2回、学芸員を派遣した。そのほか、関係課や関係団体等の依頼により、随時、学芸員を派遣した。															
事業費	平成29年度決算額 996 千円															
点検・評価	<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>点数</th> <th>評価の視点と理由</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">達成度</td> <td>3</td> <td>実績により、事業本来の目的の達成度から、どの程度の成果が得られたか。 郷土史研究会は、岩国徴古館学芸員や市内の郷土史家だけではなく、市外の大学教員や学芸員等も講師として迎えることによって、幅広い分野の話が聞ける事から、リピーターも多く、好評を得ている。 また、博学連携事業に着手し、学校への積極的な働き掛けを行ったことにより、学校での出前講座が大幅に増加した。（平成28年：4回→平成29年：12回）</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>教育委員会が実施する必要性。市民ニーズや社会情勢に合っているか。 研究会や講座の開催は、教育普及事業として、展示と並ぶ博物館の重要な事業であり、博物館が担うべき重要な役割である。</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">効率性</td> <td>2</td> <td>事業コスト（予算、人員）等の配分が適切か。効果を上げるための改善の余地はないか。 限られた予算の中で、現在も十分な効果を上げているが、外部講師と岩国徴古館学芸員の役割分担を再検討する事により、更に効果を上げることも可能となる。</td> </tr> <tr> <td colspan="2">総合評価 A</td> </tr> </tbody> </table>			項目	点数	評価の視点と理由	達成度	3	実績により、事業本来の目的の達成度から、どの程度の成果が得られたか。 郷土史研究会は、岩国徴古館学芸員や市内の郷土史家だけではなく、市外の大学教員や学芸員等も講師として迎えることによって、幅広い分野の話が聞ける事から、リピーターも多く、好評を得ている。 また、博学連携事業に着手し、学校への積極的な働き掛けを行ったことにより、学校での出前講座が大幅に増加した。（平成28年：4回→平成29年：12回）	3	教育委員会が実施する必要性。市民ニーズや社会情勢に合っているか。 研究会や講座の開催は、教育普及事業として、展示と並ぶ博物館の重要な事業であり、博物館が担うべき重要な役割である。	効率性	2	事業コスト（予算、人員）等の配分が適切か。効果を上げるための改善の余地はないか。 限られた予算の中で、現在も十分な効果を上げているが、外部講師と岩国徴古館学芸員の役割分担を再検討する事により、更に効果を上げることも可能となる。	総合評価 A	
項目	点数	評価の視点と理由														
達成度	3	実績により、事業本来の目的の達成度から、どの程度の成果が得られたか。 郷土史研究会は、岩国徴古館学芸員や市内の郷土史家だけではなく、市外の大学教員や学芸員等も講師として迎えることによって、幅広い分野の話が聞ける事から、リピーターも多く、好評を得ている。 また、博学連携事業に着手し、学校への積極的な働き掛けを行ったことにより、学校での出前講座が大幅に増加した。（平成28年：4回→平成29年：12回）														
	3	教育委員会が実施する必要性。市民ニーズや社会情勢に合っているか。 研究会や講座の開催は、教育普及事業として、展示と並ぶ博物館の重要な事業であり、博物館が担うべき重要な役割である。														
効率性	2	事業コスト（予算、人員）等の配分が適切か。効果を上げるための改善の余地はないか。 限られた予算の中で、現在も十分な効果を上げているが、外部講師と岩国徴古館学芸員の役割分担を再検討する事により、更に効果を上げることも可能となる。														
	総合評価 A															
今後の方向性	(1)引き続き、講師・テーマを工夫し利用実績増に努めていく。 (2)学校や公民館などが利用しやすい仕組みを確立し、積極的な講師派遣に努めていく。															

施策名	読書環境の整備・充実		
事業名 (担当課)	自動車図書館更新事業（中央図書館）		
目的	図書館から遠隔地に居住する市民に対して、自動車図書館により図書館資料を貸出すことで、利用者の利便性の向上を図る。		
現状	市内7図書館、1分室及び2台の自動車図書館による全域サービスを行っている。自動車図書館は、導入（平成12年1月）から18年以上が経過し、走行距離が13万キロメートルを超えている。車両本体の老朽化が激しく、利用者に安全に図書を運ぶことが困難になりつつある状況であった。		
実績	一般財団法人自治総合センターが助成する宝くじの助成金を活用して、平成30年3月に自動車図書館車両の更新を行った。新車両は、3.5トントラックをベースとしており、約3,000冊の図書を載せることができる。また、低床車で身障者専用電動リフトを装備している。 平成29年度は、21か所のサービスポイントを6コース、2週間周期で巡回した。		
事業費	平成29年度決算額 17,987 千円		
点検・評価			
	項目	点数	評価の視点と理由
	達成度	3	実績により、事業本来の目的の達成度から、どの程度の成果が得られたか。
			車両を更新したことにより、遠隔地に居住する市民や子供達に、今後も継続したサービスを行うことができるようになった。
	有効性 必要性	2	教育委員会が実施する必要性。市民ニーズや社会情勢に合っているか。
		年齢や住む場所に関係なく、全市民に等しく、公平に図書館サービスを行うことが必要である。	
効率性	2	事業コスト（予算、人員）等の配分が適切か。効果を上げるための改善の余地はないか。	
		自動車図書館業務には、嘱託職員2人と運転手1人を配置しており、これ以上人員削減を図ることは難しい状況である。また、自動車図書館に積載している図書は中央図書館の図書を利用している。	
総合評価			
A			
今後の方向性	今後も、積極的に広報活動を行い、自動車図書館の利用促進を図る。 導入から18年以上経過しているため、更に1台の自動車図書館（周東図書館所有）の更新を図る。		

施策名	子供の読書活動の推進																						
事業名 (担当課)	子供の読書活動推進事業（中央図書館）																						
目的	子供の想像力と知的好奇心を刺激し、豊かな心を育み、生涯の学びの基礎となる読書活動が可能となる環境を整備する。																						
現状	(1) 関連各課及びボランティアとの協働により、ブックスタート事業を実施している。 中央図書館では、事業のフォローアップとして、毎月2回「乳幼児の日」を設け、おはなし会等の行事を開催している。 (2) 子供と本を結ぶための活動として、全館でおはなし会を実施している。 (3) 関係機関や関係団体との連携を図り、様々な取組を実施している。																						
実績	(1) ブックスタート事業は、年間26回、958組の対象者に実施した。中央図書館では、「乳幼児の日」に合わせ、「ちいさい子のためのおはなし会」を12回、「こぐまちゃんのおはなし会」を4回、「わらべうたであそぼ」を4回開催した。 (2) 全館でおはなし会を開催した。中央図書館では、絵本作家tuperatuperaによる絵本ライブを開催した。 (3) 市内の読書ボランティアとの連携により「子ども読書ネットワークフォーラムin岩国」（山口県立図書館共催）を開催した。																						
事業費	平成29年度決算額 1,841 千円																						
点検・評価	<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>点数</th> <th>評価の視点と理由</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">達成度</td> <td>3</td> <td>実績により、事業本来の目的の達成度から、どの程度の成果が得られたか。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>関連各課や関係機関・関係団体との連携により、全市的な取組の推進が実現した。</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">有効性・必要性</td> <td>2</td> <td>教育委員会が実施する必要性。市民ニーズや社会情勢に合っているか。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>家庭、地域、学校、図書館、行政を通じた社会全体での取組が不可欠であることから、責任ある行政運営が求められる。</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">効率性</td> <td>2</td> <td>事業コスト（予算、人員）等の配分が適切か。効果を上げるための改善の余地はないか。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ブックスタート事業やおはなし会等は、職員とボランティアの協働で実施している。今後もボランティア、関係団体と連携・協働し、図書館の活性化に取り組む。</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1"> <tr> <td>総合評価</td> </tr> <tr> <td>A</td> </tr> </table>			項目	点数	評価の視点と理由	達成度	3	実績により、事業本来の目的の達成度から、どの程度の成果が得られたか。		関連各課や関係機関・関係団体との連携により、全市的な取組の推進が実現した。	有効性・必要性	2	教育委員会が実施する必要性。市民ニーズや社会情勢に合っているか。		家庭、地域、学校、図書館、行政を通じた社会全体での取組が不可欠であることから、責任ある行政運営が求められる。	効率性	2	事業コスト（予算、人員）等の配分が適切か。効果を上げるための改善の余地はないか。		ブックスタート事業やおはなし会等は、職員とボランティアの協働で実施している。今後もボランティア、関係団体と連携・協働し、図書館の活性化に取り組む。	総合評価	A
項目	点数	評価の視点と理由																					
達成度	3	実績により、事業本来の目的の達成度から、どの程度の成果が得られたか。																					
		関連各課や関係機関・関係団体との連携により、全市的な取組の推進が実現した。																					
有効性・必要性	2	教育委員会が実施する必要性。市民ニーズや社会情勢に合っているか。																					
		家庭、地域、学校、図書館、行政を通じた社会全体での取組が不可欠であることから、責任ある行政運営が求められる。																					
効率性	2	事業コスト（予算、人員）等の配分が適切か。効果を上げるための改善の余地はないか。																					
		ブックスタート事業やおはなし会等は、職員とボランティアの協働で実施している。今後もボランティア、関係団体と連携・協働し、図書館の活性化に取り組む。																					
総合評価																							
A																							
今後の方向性	(1) ブックスタート事業のフォローアップを充実させる。 (2) 「岩国市子どもの読書活動推進計画（第三次）」に基づき、事業を実施する。 (3) 関係機関・関係団体・ボランティアと連携・協働し、図書館の活性化に取り組む。																						

施策名	科学への興味を育む環境づくり		
事業名 (担当課)	科学振興展覧会開催事業（科学センター）		
目的	児童・生徒の優れた科学的な研究・観察や創意工夫に基づく工作作品を展示し、表彰することにより、科学への興味・関心及び研究意欲を高める。		
現状	市内小中学校の児童・生徒の夏休み自由研究作品（科学的な研究・観察や工作作品）の中から、優秀な作品を展示する「岩国市・和木町科学振興展覧会」を開催し、表彰を行っている。 出展数は、児童生徒数の減少、スポーツ系のクラブとの競合などの要因により近年は横ばいである。		
実績	平成29年度は、創造の部117点、自然の部297点の出展があり、そのうち、創造の部46点、自然の部100点が入賞となった。9月23日から10月8日まで展覧会を開催し、550人の来場があった。入賞作品のうち、創造の部7点、自然の部16点を県の展覧会へ出品し、創造の部2点、自然の部8点が入賞した。		
事業費	平成29年度決算額	197	千円
点検・評価	項目	点数	評価の視点と理由
	達成度	3	実績により、事業本来の目的の達成度から、どの程度の成果が得られたか。
		山口県の展覧会に出品した23点のうち10点が入賞し、優秀賞を受賞した創造の部1点と自然の部1点が全国のコンテストへ出品された。平成29年度は特に優秀な成績が収められており、児童・生徒の科学に対する興味・関心を高めることや創作のきっかけを作ることなど成果が表れている。	
	有効性 必要性	2	教育委員会が実施する必要性。市民ニーズや社会情勢に合っているか。
		小中学校の夏休みの課題の一つとして定着している。児童・生徒の優れた科学的な作品を賞し、広く科学に対する興味・関心及び研究意欲を醸成することは、これからの科学を担う人材育成事業として有効である。	
効率性	2	事業コスト（予算、人員）等の配分が適切か。効果を上げるための改善の余地はないか。	
	制作への意欲向上には、夏休み中の科学工作・実験などの機会を増やすことが考えられる。また、作品展の来場者数の増加には、展示会場の整備や展示の工夫が考えられる。		
総合評価			
A			
今後の方向性	小学校教育研究会及び中学校教育研究会の理科部会との連携を強化して、保護者の理解を深めていきたい。また、科学センターにおける科学教室や科学クラブの効果的な実施により、出展数の増加や作品内容の充実を図る。		

施策名	暮らしの中の科学や道具についての学びの推進																				
事業名 (担当課)	青少年のための科学の祭典開催事業（科学センター）																				
目的	科学に対する子供たちの興味や関心を高めることを目的に開催する。会場では、実験コーナーなどを設けた展示を行い、科学の面白さや楽しさを体験する機会を提供する。																				
現状	一般・中高生ボランティアを中心としたスタッフにより「青少年のための科学の祭典」を8月6日に由宇会場（山口県ふれあいパーク：由宇町銭壺山）にて、11月5日に岩国会場（市役所多目的ホール）にて、それぞれ開催した。																				
実績	由宇会場13ブース、岩国会場18ブースの出展で開催し、当日の天候不順や他の行事との重複もあったが、由宇会場472人、岩国会場575人と多くの家族連れの方々などの参加・来場を得ることができた。																				
事業費	平成29年度決算額 823 千円																				
点検・評価	<table><tr><td>項目</td><td>点数</td><td>評価の視点と理由</td></tr><tr><td rowspan="2">達成度</td><td>3</td><td>実績により、事業本来の目的の達成度から、どの程度の成果が得られたか。</td></tr><tr><td></td><td>理科の先生や生徒を始め、科学に関心のある市民が運営に加わり、来場した子供たちに対して、身近に科学の驚きや不思議さを体感させることができた。</td></tr><tr><td rowspan="2">有効性・必要性</td><td>2</td><td>教育委員会が実施する必要性。市民ニーズや社会情勢に合っているか。</td></tr><tr><td></td><td>子供を始め、運営に参加した市民・学生に向け、自然科学の面白さや不思議さを短時間で伝えることができた。また、科学の普及や啓発という意味においては、有効性・必要性ともに高いイベントである。</td></tr><tr><td rowspan="2">効率性</td><td>2</td><td>事業コスト（予算、人員）等の配分が適切か。効果を上げるための改善の余地はないか。</td></tr><tr><td></td><td>実行委員会による手作りの祭典（出展）であり、事業コスト削減に努めている。来場者へ楽しさを提供し啓発に努める一方、新しく参加した先生には、理科実験や工作の楽しみ方を体験し、知見を広げることで科学教育のリーダー育成につながる効率性の高い事業である。</td></tr></table>			項目	点数	評価の視点と理由	達成度	3	実績により、事業本来の目的の達成度から、どの程度の成果が得られたか。		理科の先生や生徒を始め、科学に関心のある市民が運営に加わり、来場した子供たちに対して、身近に科学の驚きや不思議さを体感させることができた。	有効性・必要性	2	教育委員会が実施する必要性。市民ニーズや社会情勢に合っているか。		子供を始め、運営に参加した市民・学生に向け、自然科学の面白さや不思議さを短時間で伝えることができた。また、科学の普及や啓発という意味においては、有効性・必要性ともに高いイベントである。	効率性	2	事業コスト（予算、人員）等の配分が適切か。効果を上げるための改善の余地はないか。		実行委員会による手作りの祭典（出展）であり、事業コスト削減に努めている。来場者へ楽しさを提供し啓発に努める一方、新しく参加した先生には、理科実験や工作の楽しみ方を体験し、知見を広げることで科学教育のリーダー育成につながる効率性の高い事業である。
	項目	点数	評価の視点と理由																		
	達成度	3	実績により、事業本来の目的の達成度から、どの程度の成果が得られたか。																		
			理科の先生や生徒を始め、科学に関心のある市民が運営に加わり、来場した子供たちに対して、身近に科学の驚きや不思議さを体感させることができた。																		
	有効性・必要性	2	教育委員会が実施する必要性。市民ニーズや社会情勢に合っているか。																		
		子供を始め、運営に参加した市民・学生に向け、自然科学の面白さや不思議さを短時間で伝えることができた。また、科学の普及や啓発という意味においては、有効性・必要性ともに高いイベントである。																			
効率性	2	事業コスト（予算、人員）等の配分が適切か。効果を上げるための改善の余地はないか。																			
		実行委員会による手作りの祭典（出展）であり、事業コスト削減に努めている。来場者へ楽しさを提供し啓発に努める一方、新しく参加した先生には、理科実験や工作の楽しみ方を体験し、知見を広げることで科学教育のリーダー育成につながる効率性の高い事業である。																			
	<table><tr><td>総合評価</td></tr><tr><td>A</td></tr></table>			総合評価	A																
総合評価																					
A																					
今後の方向性	科学の楽しさを子供たちに伝えることを目的に、科学教育に広く携わったり関心を持つ者が一堂に会するイベントであるが、年を経て出展内容が単調になりがちであるため、出展・運営スタッフなどの裾野を広げていきたい。																				

施策名	公民館活動の推進																				
事業名 (担当課)	各種学級・講座開催事業（中央公民館）																				
目的	様々な年齢層に対応した現代的・社会的な課題について学習の機会を提供する。また、地域や学校とも連携して効果的に学級や講座を開催する。																				
現状	公民館事業を「高齢者対象」「子供対象」「成人対象」「子育て世代対象」と年齢層ごとに分け、趣味的なものから市の啓発的課題等、地域ごとに特色ある講座を企画・開催している。また、地域で活動する諸団体や学校等とも協力し、事業展開をしている。																				
実績	高齢者を対象とした事業：交通安全、健康増進、消費生活等の内容 113件 子供を対象とした事業：体験、創作活動 126件 成人を対象とした事業：一般教養、趣味的講座 127件 子育て世代を対象とした事業：親子ふれあい、家庭教育講座 94件 これらの事業のうち、小中学校と連携した事業： 45件																				
事業費	平成29年度決算額 4,341 千円																				
点検・ 評価	<table><tr><td>項目</td><td>点数</td><td>評価の視点と理由</td></tr><tr><td rowspan="2">達成度</td><td>3</td><td>実績により、事業本来の目的の達成度から、どの程度の成果が得られたか。</td></tr><tr><td></td><td>全体の事業数は減少したが、公民館の重点事項としている学校・家庭・地域で子供たちの学びや成長を見守り支援することに関連した事業は増加させることができた。</td></tr><tr><td rowspan="2">有効性 必要性</td><td>2</td><td>教育委員会が実施する必要性。市民ニーズや社会情勢に合っているか。</td></tr><tr><td></td><td>公民館講座をはじめとした生涯学習への市民の関心は高く、講座の問合せや相談も多い。利用者からの要望に沿った講座を提供するだけに留まらず、一般社会での啓発活動に関連した講座も企画するようにしている。</td></tr><tr><td rowspan="2">効率性</td><td>3</td><td>事業コスト（予算、人員）等の配分が適切か。効果を上げるための改善の余地はないか。</td></tr><tr><td></td><td>公民館という性質上、謝礼は低めに設定し講師に協力を仰いでいる。また、公共的な団体等から指導者を招くことも積極的に行っており、事業コスト削減に努めている。</td></tr></table>			項目	点数	評価の視点と理由	達成度	3	実績により、事業本来の目的の達成度から、どの程度の成果が得られたか。		全体の事業数は減少したが、公民館の重点事項としている学校・家庭・地域で子供たちの学びや成長を見守り支援することに関連した事業は増加させることができた。	有効性 必要性	2	教育委員会が実施する必要性。市民ニーズや社会情勢に合っているか。		公民館講座をはじめとした生涯学習への市民の関心は高く、講座の問合せや相談も多い。利用者からの要望に沿った講座を提供するだけに留まらず、一般社会での啓発活動に関連した講座も企画するようにしている。	効率性	3	事業コスト（予算、人員）等の配分が適切か。効果を上げるための改善の余地はないか。		公民館という性質上、謝礼は低めに設定し講師に協力を仰いでいる。また、公共的な団体等から指導者を招くことも積極的に行っており、事業コスト削減に努めている。
	項目	点数	評価の視点と理由																		
	達成度	3	実績により、事業本来の目的の達成度から、どの程度の成果が得られたか。																		
			全体の事業数は減少したが、公民館の重点事項としている学校・家庭・地域で子供たちの学びや成長を見守り支援することに関連した事業は増加させることができた。																		
	有効性 必要性	2	教育委員会が実施する必要性。市民ニーズや社会情勢に合っているか。																		
			公民館講座をはじめとした生涯学習への市民の関心は高く、講座の問合せや相談も多い。利用者からの要望に沿った講座を提供するだけに留まらず、一般社会での啓発活動に関連した講座も企画するようにしている。																		
	効率性	3	事業コスト（予算、人員）等の配分が適切か。効果を上げるための改善の余地はないか。																		
		公民館という性質上、謝礼は低めに設定し講師に協力を仰いでいる。また、公共的な団体等から指導者を招くことも積極的に行っており、事業コスト削減に努めている。																			
<table><tr><td>総合評価</td></tr><tr><td>A</td></tr></table>			総合評価	A																	
総合評価																					
A																					
今後の 方向性	地域の活性化や子供たちの学びや健やかな成長を育む上で、公民館の役割は大きい。公民館は個人の学習要求を満たすだけでなく、関係団体と協力し地域の発展に結び付く学習機会の提供を目指す必要がある。																				

■おわりに

この度作成しました平成 29 年度の岩国市教育委員会点検・評価報告書につきましては、点検項目を教育基本計画の施策概要の中から選定し、平成 29 年度に取り組んだ主要な 16 事業の点検・評価を実施いたしました。

各事業の目的に照らした現状、実績等の分析結果による「達成度」、「有効性・必要性」及び「効率性」の 3 項目を基にした総合評価（S から D までの 5 段階）の結果につきましては、S 評価 2 事業（12.5 パーセント）、A 評価 14 事業（87.5 パーセント）となり、B 評価、C 評価及び D 評価となった事業はありませんでした。

点検・評価を実施しました事業のうち、「地域とともにある学校づくりを進めるコミュニティ・スクールの整備推進」及び「青少年問題に係る関係機関・団体との連携強化事業」につきましては、前年度に引き続き S 評価となっております。

全体を見ましても、取り組んでまいりました諸事業は、着実に成果を上げているものと考えておりますが、今後におきましても、教育環境の整備、教育活動の推進について、なお一層の努力をしてまいりたいと考えております。

今回の点検・評価の結果を踏まえ、教育委員会会議その他あらゆる機会を捉えて広く議論を重ね、課題や改善点を十分に検討して岩国市の教育行政の推進に努めていく所存ですが、本報告書について、皆様の率直な御意見を賜り、今後の教育行政の課題解決等に役立てていきたいと考えておりますので、何とぞよろしくお願いいたします。

平成 30 年 7 月 19 日

岩国市教育委員会
教育長 守 山 敏 晴

